

第1回組織開発ラボラトリー「グループプロセス・コンサルテーション」

ー会議などの話し合い場面でのグループプロセスを支援するための、グループに対する診断と介入のアプローチ

<p>担当者</p>	<p>Chuck Phillips (組織開発コンサルタント)</p> <p>中村 和彦 (南山大学人文学部心理人間学科准教授)</p> <p>津村 俊充 (南山大学人文学部心理人間学科教授)</p>
<p>概要</p>	<p>組織開発 (OD: organization development) の源流はTグループにあります。1950年代の終わり頃より、Tグループのトレーナー達が、グループへの働きかけの知識やスキルを、企業のミーティング場面でのチーム・ビルディングに応用していったのが、組織開発の始まりでした。日本においてTグループを長年実施してきた当センターとしては、米国における組織開発の理論と実践をラボラトリーとして体験から学ぶトレーニングを日本で実践することも重要なミッションであると考えています。このたび、組織開発について体験から学ぶラボラトリー (= 組織開発ラボラトリー) としてチャック・フィリップス氏を日本に招聘し、「グループプロセス・コンサルテーション」のトレーニングを開催いたします。</p> <p>【目的】 今回のトレーニングは、組織開発 (organization development) の介入手法の中でも、グループ (チーム) レベルに対する働きかけを学ぶものです。グループプロセスとは「グループの中で、お互いの間に起こっている」関係的な過程を指します。会議やミーティング場面などで、グループやチームでの話し合いがうまくいかないことにお困りの方は多いでしょう。話し合いがうまく進むようにするために、外部のファシリテーターの力を借りることも考えられます。その場合、ファシリテーターがいるとミーティングはうまく進むけれど、ファシリテーターがいないと話し合いがうまく進まない、ということもありません。理想的には、グループ自身が「自らのグループプロセスをマネジメントできる力」をもつこと、すなわち、メンバー自身がグループプロセスに気づき、働きかけ、改善していく力を養っていくことが重要です。</p> <p>この研修では、グループが「自らのグループプロセスをマネジメントできる力」を高めていくプロセスを支援する方法である、グループプロセス・コンサルテーションの理論と手法を学んでいきます。この理論と手法は基本的には、外部コンサルタントとして会議やミーティング場面のグループに働きかけていくものであり、組織開発コンサルタントやグループのファシリテーターの方々の実践に応用できる内容です。また、チームのマネージャーやリーダーなど、職場のチームづくりの理論と実践を学びたいという方にも適しています。なお、理論や手法だけに焦点づけがなされるのではなく、体験学習を通して、自分自身のグループへの関わり方にも光を当てながら、進められます。</p> <p>【講師】 講師のチャック・フィリップス氏は、Tグループのトレーナーに携わるとともに、ブレンダン・レディ氏 (Dr.Brendan Reddy) とともに組織開発コンサルテーションを実施する中で、レディ氏とともに、この「グループプロセス・コンサルテーション」の理論と手法を体系化させました。その内容は"Intervention Skills: Process Consultation for Small Groups and Teams." (未翻訳) として1994年に出版されています。</p> <p>【プログラムの進め方】 このトレーニング・ラボラトリーでは、参加者は3つのグループに分かれ、各グループである課題に取り組んでいきます。また、参加者が順にグループプロセス・コンサルタントの役割を担い、他のグループが活動している場に行き、グループプロセスに対して働きかけを行います。この体験をふりかえることで、グループプロセスを捉え、働きかけることについて体験から学んでいきます。他にも、理論を学ぶセッションや、全体でワークに参加し学ぶセッションからプログラムは構成されます。なお、夕食後も午後9時頃までセッションが行われます。</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに働きかけるプロセス・コンサルタントとしての「私」に対するフィードバックを受けることができます。 ・グループに働きかけるコンサルタント/ファシリテーターとしての、指向性、スタイル、感受性、介入の深さなどを検討することを通して、グループに働きかける「私」についての気づきが高まります。 ・グループに働きかける際の介入の理論的枠組みを理解することができます。
<p>日程</p>	<p>2010年 2月17日 (水) 午後2時開始～22日 (月) 午後1時終了 (5泊6日)</p>
<p>定員</p>	<p>18名</p>
<p>会場</p>	<p>(財) K E E P協会・清泉寮 〒407-0311 山梨県北杜市高根町清里3545 Tel:0551(48)2111 ※寒い季節のため、防寒具をお持ちください。</p>
<p>受講料</p>	<p>受講料 140,000円 滞在費 53,250円 (ツイン利用) ※この講座では、受講料に対する学割は適用されません。</p>
<p>メルマガ講座報告</p>	<p style="text-align: right;">担当講師 中村和彦 記</p> <p>海外から講師を招いて組織開発の理論と手法について体験から学ぶ、組織開発ラボラトリーが2/17 (水)～2/22 (月)の5泊6日で、山梨県清里にて開催されました。テーマは「グループプロセス・コンサルテーション」で、米国からChuck Phillips (チャック・フィリップ) 氏を招聘して行われました。参加者はコンサルタントや企業関係者を中心とした17名でした。</p> <p>「グループプロセス・コンサルテーション」とは、基本的には、コンサルタントがグループの発達・成長をめざして意図的に働きかけを行っていくものです。講座では、グループプロセスの見方、働きかけ (介入) のタイプや深さなどの理論を学ぶとともに、GPC (グループプロセス・コンサルタント) の役割を順番に担当し、グループに働きかける練習をして、その体験から学びました。</p> <p>私は2005年度に米国留学の機会を得ることができ、NTL Institute が主催する組織開発の多くの研修に参加することができました。その体験を通して感じたのが、日本には組織開発を学ぶ機会が少ないということでした。帰国する際に自らが誓ったいくつかの夢の一つが、米国から講師を招聘して組織開発のラボラトリーを実施することでした。今回、このように当センター主催で第1回組織開発ラボラトリーを成功裏に終了できたのは、講師のチャック氏、参加者の皆さん、通訳の溝口良子氏、そしてセンター長であり研修中は事務局としてサポートしていただいた津村俊充氏、センター事務局の皆さんのお陰だと感じています。</p> <p>組織開発について体験から学べる機会を提供していくことは当センターのミッションの一つだと考えています。その最初の一步を踏み出したことをうれしく感じています。そして、来年度の第2回組織開発ラボラトリーに向けての交渉や準備がすでに始まりました。</p>